

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
田岡 昌大			
金5			
添付ファイル			

科目の概要	この講義では、教職に関わる制度や職務内容、歴史等を理解することを目指す。教師・教員とは、学校に通う限り身近な存在である。しかし、生徒から見える教師像・教員像と実際とは同じとは限らない。また、一口に「教師」「教員」としても、時代や場所によって様々なあり方があり、また理解のされ方がある。従って、自らの教職観もそうした時代的、社会的な拘束を受けている可能性を考慮し、まずはその相対化が目指される必要がある。講義では、教職の歴史や職務内容、制度等の知見を踏まえて、自身の教職観を豊かにすると共に、職務内容やサービスを踏まえて具体的に現実的な教職観を得ることを目指したい。
授業の内容	<p>第1回 「教師」と「教員」について 本授業の目的・概要を理解する。また、教職を表現する様々な語（「教師」「教員」「教諭」など）のそれぞれの意味を整理するため、それぞれの語の意味と違いについて調べておくこと。また、自身の考える教師像についてまとめられるように、考えておくこと。</p> <p>第2回 様々な教師像① 前回提出してもらった教師像について検討を行う。 また、様々なメディアで描かれる教師像を比較しながら、その特徴を把握するとともに、世間からの教師に対する期待のあり方を理解する。また、これによって、教職に対する期待と不信が生じるメカニズムについて理解する。 受講に際しては、メディア（映画、漫画、アニメ、小説など）で描かれる教師像について調べ、なぜそれが魅力的な教師として描かれるのかについて考えておくこと。</p> <p>第3回 様々な教師像② 教師像は歴史的・社会的な文脈によって変化する。この回では、明治期から戦後にかけての教師像の変遷を理解すると共に、それぞれの教師像の歴史的背景を理解する。 近現代の、特に戦後期の教育に関する基本的な事柄を復習しておくこと。</p> <p>第4回 様々な教師像③ この回では、戦後期から現代にかけての教師像の変遷を理解すると共に、それぞれの教師像の歴史的背景を理解する。 特に戦後期の教育史に関する基本的な事柄を復習しておくこと。</p> <p>第5回 様々な教師像④ この回では、現代の教師像について理解する。ここまでの歴史の話でも理解されるように、教師像は歴史的・社会的文脈において成立する。それゆえ、現代の教師像もそうした背景を伴っている。従って、現代の教師像を理解することは、その背景も併せて理解することが求められる。 現代の教育の課題、社会的な課題を自分なりに調べてまとめておくことと共に、それらと教師像の関係について考えておくこと。</p> <p>第6回 様々な教師像⑤ ここまでの教師像の歴史を振り返りながら、自らの教師像の歴史性・社会性について理解する。また、それを踏まえた上で目指すべき教師像を捉え直すと共に、大学の教職課程の「学び」について再検討する。 この回では、ここまでの内容を振り返りながら、改めて自身の見解を問う。ここまでの復習をして内容を自分なりに整理して、自身の見解を表現できるよう準備しておくこと。</p> <p>第7回 教職の特徴と特殊性① 他職と比較した場合の、教職の特殊性を理解する。また、その特殊性が、同時に困難として現れる事象について理解する。 教職の特殊性について自分なりに考えておくことと共に、機械ではなく人間が教育をしなければならない理由について自分なりに調べ、考えておくこと。</p> <p>第8回 教職の特徴と特殊性② 教職における「多忙」の現状と、それが生じる背景的要因についてデータ等に基づいて理解する。また、こうした「困難」を生じさせる教員の労働の実態について理解する。 教職の労働の実態について自分なりに調べておくこと。</p> <p>第9回 教職の特徴と特殊性③ 教職の特徴を教育関係という特殊性から再整理を行う。その上で、教育関係に固有の困難と意義、役割について理解すると共に、「学び続ける教員像」について理解する。 ここまでの内容を振り返りながら検討を行うため、ここまでの内容を復習して再整理しておくこと。</p> <p>第10回 教職をめぐる法律① 教職に関する法を理解すると共に、教職の服務について理解する。 この回では法に関する内容を扱うため、他の講義（例えば日本国憲法など）で教育に関する法を扱った内容を復習しておくこと。</p> <p>第11回 教職をめぐる法律② 処分の事例や統計などを通して、現代の状況を理解する。また、服務上、身分上の義務のそれぞれを理解することを通して、教職の公共的な使命がどのように規定されているのかを理解する。 近年に起きた教師を巡る懲戒事例などについて調べておくことと共に、それらがなぜ「悪いこと」とされるのか、その根拠を考えておくこと。</p> <p>第12回 教職の公共性について 教職の公共的役割について、改めて教育の公共性という原理的な点にまで遡って整理する。ま</p>

	<p>た、教師に対する期待と現実とがずれ違ってしまう事態について、原理的な観点から理解し直す。</p> <p>この回の内容は原理的な内容を含むため、特定の予習は不要である。ここまでの講義内容を振り返って整理しておくと共に、他の講義で学習した内容を援用して理解し直し、自分なりに思考を深めておくこと。</p> <p>第13回 ワークショップ① 「イチャモン」に関するワークショップ（ロールプレイ）を行う。この回は、その準備に充てる。</p> <p>第14回 ワークショップ② いわゆる「モンスター・ペアレント」といわれる事例などを自分なりに調べておいて、予習しておくこと。</p> <p>第15回 実際にロールプレイをすることを通じて、教職の困難を理解すると共に、保護者や地域住民と共に学校・教育を作っていく可能性について検討する。</p> <p>まとめ これまでの内容を踏まえ、講義内容を総括する。</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義、職務内容・サービスについて理解する。 2. 様々な教職のイメージを整理し、論じることができる。 3. 自身の教職のイメージをより豊かに、はっきりしたものとし、表現できる。
授業の方法	<p>【授業形態】 講義形式</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 基本的には講義形式で行うが、近隣の者同士でのディスカッションも行う。 また、コメント・ペーパーにて講義の感想を求めると共に、そのリプライを講義内にて行う。</p>
成績評価の方法	試験70%、講義内での課題20%、提出物10%
教科書・テキスト	特に指定しない。
参考書	<p>広岡義之（2017）『はじめて学ぶ教職論』ミネルヴァ書房</p> <p>井藤元編（2017）『ワークで学ぶ教職論』ナカニシヤ出版</p> <p>この他は必要に応じて講義内にて指示をする。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学習については、シラバスにして指示している以外では、講義内にて指示する。</p> <p>それ以外としては、本シラバスにて挙げられている参考書を読むか、あるいはあ、自身の関心のある事柄に関わる書籍等を読むなどを行って欲しい。</p> <p>事後学習としては、講義にて触れた事柄などで分からないことがあれば自分で調べるなどして欲しい。</p> <p>また、それと共に、自身の見解をまとめることも含めて、情報を整理するような学習に努めて欲しい。</p>
履修上の留意事項	講義形式だが、講義に関わる発言に関しては、可能な範囲で応じたいと考えています。
オフィスアワー	月曜3限
実務経験	
その他	